

彩の国SDGsセミナー「地域の取り組みが世界を変える」参加報告

井上 匠

下記のセミナーに参加しましたので要約を報告いたします。

特にプレゼンについては資料配布がなく、聴取した点のみを記載していますので聞き漏らしや理解誤り等々々あると思いますがご容赦願います。

記

1. 日時 : 2020年11月21日(木) 13時30分~16時30分
2. 場所 : キュポ・ラ7階 メディアセブン
3. 主催 : NPO 民族フォーラム・(独立行政法人) 国際協力機構 JICA 東京
4. 協力団体: NPO 法人 JIN 愛育センター・NPO 法人 マンション GPS・NPO 法人 インターナショナル川口
荒川夢クラブ・芝園かけはしプロジェクト
5. 後援 : 埼玉県・(公益財団法人) 埼玉県国際交流協会・川口市・川口市教育委員会・NHK 埼玉放送局
読売新聞さいたま支局・株式会社テレビ埼玉
6. 協賛企業: 株式会社セラフ榎本・前澤工業株式会社
7. プログラム(内容の概要は別紙のとおり)

司会: NPO 法人 マンション GPS 理事長 村本美才子

(1) 開会あいさつ

- | | |
|-----------------|------------------|
| ①川口市多文化協働推進課 | 川田 一 |
| ②JICA 東京 | 市民参加協力 次長 長谷川 敏久 |
| ③NPO 法人 民族フォーラム | 理事長 山本 孟人 |

- | | |
|--------------------|---------------------------|
| (2) JICA 埼玉の取り組み | JICA 埼玉デスク 国際協力推進員 矢田部 建佑 |
| (3) SDGs の地域での取り組み | 埼玉県議会議員 岡村 ゆり子 |

SDGs の活動事例

- | | |
|----------------------------|---|
| (4) SDGs 時代における水事業の可能性を考える | 前澤工業株式会社 海外推進室 次長 徳武 浩幸 |
| (5) 川の豊かさを守る活動 | 荒川夢クラブ 幹事 飯田 弘 |
| (6) 教師海外研修の学びを生かす活動 | 埼玉県立鳩ヶ谷高校 吉田 大祐先生
関 南音(せきなおと:生徒) |
| (7) 外国人と共に暮らすかけはしプロジェクト | 芝園団地自治会 事務局長 岡崎 広樹
芝園かけはしプロジェクト 代表 圓山 王国 |

質疑応答

- | | |
|---------------------|----------------------------|
| (8) 本日のまとめ・今後の展望・助言 | 拓殖大学 名誉教授 赤石 和則 |
| (9) 閉会のあいさつ | NPO 法人 JIN 愛育センター 管理者 鄭 錦伊 |

8. 運営体制

今回のセミナーは会場参加とオンライン参加で実施、オンライン参加のノウハウ・機材等は JICA が提供。

会場は数多くの人参加があり、机がない臨時の椅子席も用意されていた。

開催に際しては上記の通り数多くの行政、マスコミ、NPO、企業等の組織が参加し、プレゼンも参加した団体等が実施する等今後多文化共生シンポジウムを開催するに際しての参考となった。

会場のメディアセブンは視聴覚設備等が揃っており、オンライン会議にも向いていると感じた。

要旨は以下の通り。

(1) 開会あいさつ

①川口市多文化協働推進課 川田 一

- ・SDG s 後援団体としてあいさつ
- ・川口市外国人が多く毎年2~3千人増加、但し今年は東日本大震災以来初めて減少(1月38,764人⇒11月38,591人)、それだけコロナの影響が大きい。
- ・コロナに関する外国人の相談件数は増加している。
- ・今回のSDG s セミナーに多くの方が参加された、市としてもSDG s の普及に寄与したい。

②JICA 東京 市民参加協力 次長 長谷川 敏久

- ・自己紹介：貿易会社勤務後JICA入社し25年、アフリカが大好き
- ・JICAについて
国際協力機構 (Japan International Corporation Agency の略) の4つの機能
 - a. 有償資金協力(例：バンコク国際空港の地盤改良等)
 - b. 無償資金協力(例：発展途上国の学校、病院、橋、上下水道等)
 - c. 技術協力 (人を派遣し日本の技術を現地人に移転、各国から人を招聘し研修の実施)
 - d. 市民参加協力 (青年海外協力隊：年1000人程度2年間派遣、NGOよりの提案、草の根技術協力、中小企業SDG s 支援事業、一般市民の方々に参加してもらう事業拡大等)
- ・JICAは国内の改革に取り組むことは法律上出来ない事になっている。
- ・日本の国内の状況が変化し、技術実習生受入れ増加し、日本に住む人との共生が重要となる。
- ・技能実習生が起こした事件は彼らを追い込んでしまった事も一因であり、より充実した来日前事前研修の実施等JICAも出来る事ある。
- ・またJICAも地域の皆さんと課題を共有し解決する事も意味があると考えている。
- ・JICAを身近に感じて欲しい。北浦和に埼玉デスクを置いており、何か役に立てることがあれば矢田部氏に連絡して欲しい。

③NPO 法人民族フォーラム 理事長 山本 孟人

- ・コロナ禍の中多くの人の参加にお礼
- ・本セミナーについて
 - a. メディアセブンは出発地として意味ある。住所が川口市川口1丁目1番地
 - b. JICAと開催するに際し協力団体(マンションGPS、JIN愛育センター、インターナショナル川口)を選んでいただいた。JICA矢田部氏(川口在住)のご尽力によりJICAと役割分担することで共同が開催出来た。
 - c. 事例発表して頂く地域にて活動している団体とジョイントし、ネットワークづくりが出来た。
- ・SDG s の目標11、「住み続けられるまちづくり」は川口の地域おこしととらえ、地域より声を上げて「川口を住みやすいまちに」していきたい。
- ・民族フォーラムについて
1997年設立、発展途上国への支援活動
 - a. ベトナム：ベトナム戦争の後遺障害者支援、視覚障害者用教材開発、JICA・外務省の支援。
 - b. ミャンマー：消防車、救急車を埼玉にて調達し29台を寄贈、ミャンマー大使より引続き要請が現在もあり。
 - c. 国内：今年はコロナの為、目に見える活動は今回のセミナーが最初

(2) JICA 埼玉の取り組み JICA 埼玉デスク国際協力推進員 矢田部 建佑

- ①多文化共生シンポジウム実行委員会にて実施した内容とほぼ同じのため割愛。

(3) SDG s の地域での取り組み 埼玉県議会議員 岡村 ゆり子

- ①略歴：1981年生、2015年川口市議会議員、2019年県議会議員、所属会派：無所属県民会議（県議会では自民党に次ぐ会派、大野知事の与党）
- ②川口市の取り組み
 - ・正直なところ SDG s について進んではいない。
 - ・第5次川口市総合計画後期基本計画の中で SDG s 17 の目標をつける等分かり易くなった。
 - ・多文化共生について壁があるのが現状であり、市も啓発を行っている。
- ③愛媛県松山市の取り組み
 - ・34歳で市議会議員になったため全国若手議員の会（35歳以下の議員で組織）のメンバーになり松山市の取組みを知った。
 - ・松山市では2018年若手の職員が SDG s 協議会を作る。
 - ・世代間ギャップを取除く、親子で SDG s を考える、大学生も取組む等 SDG s を知る機会となった。
- ④埼玉県の取り組み
 - ・大野知事が率先して「誰一人取り残さない」として埼玉版 SDG s の取組みが始まる。
 - ・9月官民連携プラットフォーム、10月23日シンポジウム開催、
 - ・11月 SDG s パートナー登録開始（11月18日現在12企業が登録）
 - ・県と一緒に SDG s に取り組んで欲しい。
- ⑤SDG s について
 - ・LDBT問題、子供の貧困問題、皆が平等様々な課題があるが、自分の事として考え多くの人と一緒に実行していく。これらをやっていく事がすべて SDG s である。身近なことから考えていき、より良いまち・未来を作るため多くの皆様と「大きな一歩」に結びつくようにしていきたい。

SDG s の活動事例

(4) SDG s 時代における水事業の可能性を考える 前澤工業株式会社 海外推進室 次長 徳武 浩幸

- ①前澤工業の SDG s の取り組みは始めたばかりで明確にはなっていない。
経営理念は「水とともに躍進し人間らしさを求め、社会に貢献できる魅力あり企業」を目指す。
- ②会社概要：川口市に本社、前澤工業、前澤化成工業、前澤給装工業の東証上場の3社でグループ構成、上下水道用機器・水処理装置専門メーカー
- ③国内水ビジネス事情
 - ・上水道：少子高齢化、水供給量の減少、設備の老朽化、
 - ・下水道：設備の老朽化はこれから。（遅れて設置され上水道ほど深刻さない。）
 - ・課題の広域化が進み、技術革新が必要
- ④世界の水
 - ・14億キロ m³、0.01%が使用可能、温暖化・気候変動問題、汚染された水、消滅するアラル海、水需要の増加（特にアジア地区が大幅に増加）
 - ・世界の40%の国が水ストレス（年間使用可能水量1000 m³未満）の状態、（日本は3300 m³）
- ⑤前澤工業の取り組み
 - ・65か国輸出、水関係のテーマで JICA 研修生の受入れ
 - ・下水道事業の「2点 DO 制御システム」科学技術振興機構(JST :Japan Science & Technology Agency) 主催の「STI for SDGs」アワードの『優秀賞』受賞、※STI : Science Technology & Innovation
 - ・タイでの活動：アマタシティチョンブリ工業団地
 - ・埼玉県（企業局、下水道局、県民生活部）との連携

(5) 川の豊かさを守る活動 荒川夢クラブ 幹事 飯田 弘 (海外勤務の経験あり)

- ①2000 年ミレニアムを記念し、荒川の源流の大滝村と下流の川口の子供の「川口っ子夢交流事業」実施。
2001 年先生や市民のサポーターが「荒川夢クラブ」としてスタート
- ②主な活動は「荒川クリーンエイド」「夏休み川口水辺の楽校：水質検査・清掃と自然保護区観察」「蕨東公民館子供講座」「芝南公民館子供講座」「豎川クリーン作戦」等
※上記以外の多くの取り組み実績を発表したが記載できず。

③SDG s 目標

- 目標 14：海の豊かさを守る
- 目標 15：陸の豊かさを守る
- 目標 4：質の高い教育をみんなに
- 目標 6：安全できれいな水とトイレを世界中に
- 目標 10：人や国の不平等をなくす
- 目標 13：気候変動に具体的な対策を

(6) 教師海外研修の学びを生かす活動 埼玉県立鳩ヶ谷高校 吉田 大祐先生

同 関 南音 (せきなおと：生徒)

- ① 教師 5 年目、2018 年 JICA 主催の教師海外研修で 10 日間ベトナムへ
 - ・現地学校視察、現地でのインタビュー (清水建設、ドクさん)、ホームステイ (少数民族の家)
 - ・少数民族の子供たちとの交流、不発弾が集会所の鐘として使われていた事等新しい発見体験。
- ② ベトナムでの研修を授業に還元
 - a.新聞掲載のベトナム留学生の「日本人の幸福ってなに？」記事を題材。
 - ・総合的授業の中、学年の全教員の協力、多様な学びとして実施
 - ・身近な SDG s の写真を撮る、ベトナムを知る (滞在した村でも Wi-fi 等電子化されている)、幸せのダイヤモンドランキング、幸せの要素、幸せ散歩
 - b.実践授業
 - ・過去と未来をつなぐ、今生きている人と生徒をつなぐ、单元ごとに学びを詩で表現する。
 - ・パレスティナの高校生とのオンライン (Zoom による) 対話 (JICA の協力を仰ぐ)
 - ・日本、パレスティナ高校生が詩を作り交換、パレスティナ高校生が大変な状況下でも平和について考え、又国外に出たことがない等知ることが出来た。
 - ・教科書では学べない事を実感
- ③ 有志の生徒とのビジネスコンテスト実施 (生徒との課外授業)
 - a.生徒 関 南音による高校生が考える「ビジネスモデル」発表
 - ・ワラビスタンと呼ばれているクルド人 (イスラム教徒、全国の 80% の 1500 人が蕨・川口に住む) のインタビュー調査の実施
 - ・クルド人の抱える課題 (自分たちの文化が理解されていない、経済的に困難)
 - ・日本人の抱える課題 (SDG s 17「パートナーシップ」、コロナウイルスによる海外旅行者数の減少)
 - ・上記解決方法としてのビジネスモデル (ワラビスタンを中心に交流をはかる)
クルド人の家庭に 1 泊のホームステイ⇒Win-Win の関係
海外旅行の費用最低 6 万円はかかるが、1 泊宿泊費は 6,800 円 (日本人節約、クルド人収入)
クルド人と日本人の双方向の文化理解等の交流が可能。
事業をリスティング広告、ブログ、SNS 等活用し宣伝を行う
事業の展開 (蕨・川口地域よりスタート⇒3 年後埼玉県⇒7 年後全国に)

- (7) 外国人と共に暮らすかけはしプロジェクト 芝園団地自治会 事務局長 岡崎 広樹
芝園かけはしプロジェクト 代表 圓山 王国

岡崎氏

① 岡崎氏略歴

1081 年上尾生まれ、早稲田大学卒業、三井物産（イギリス、オランダ、ノルウェー）、松下政経塾を経て現在に至る。

② SDG s 目標

目標 10「人や国の不平等をなくそう」

目標 11「住み続けられるまちづくりを」

11-3 2030 年までに、包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、全ての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居留計画・管理の能力を強化する。

③ 芝園団地の現状

- ・ 1978 年建設、蕨駅より徒歩 10 分、24 時まで Open のスーパー、2454 戸
- ・ 日本人推移 5300 人⇒2300 人、外国人 200 人⇒2800 年、外国人の大半は中国人で 30 歳未満が 54%
- ・ 当初：ごみの分別、騒音等で問題発生、ベンチに落書き、ヘイトスピーチ、生活習慣変えられない
- ・ UR が中国語のごみ分別のパンフレット作成⇒生活習慣の問題は緩和されてきた。
- ・ 学生（芝園かけはしプロジェクト）による新しい風（日本人と中国人による開かれた自治会活動等）

圓山氏

① 芝園かけはしプロジェクト：学生ボランティアグループ約 30 名参加（中学生から大学生まで）

② 「問題緩和」「交流促進」の 2 つのアプローチ

「問題緩和」：問題の元を小さくする。生活案内等の作成

- ・ 生活案内パンフレット作成（ワークショップにて作成、外国人向けから住民向けに変更）
日本人の参加、一方的な注意でなく全住民向けにした。

ワークショップの通じてわかった事（気になる臭い：日本人は香辛料の臭い、中国人は醤油の臭い）

3 言語（やさしい日本語、英語、中国語）で作成

- ・ 地域情報誌（どんな人が住んでいるか）作成

「交流促進」：学生が間に入る。

- ・ 2015 年落書き机直しプロジェクト、手形ペイント⇒平和な日常のシンボル
- ・ 2016 年多文化交流クラブ、交流促進、イベント：学生、住民（日本人・中国人）が一緒に参加
- ・ 企画会議、持ち寄り料理等多くの人が参加し継続できるイベント、顔の見える関係づくり、
かけはしプロジェクトと自治会が共同で開催
- ・ 外国人自治会加入数増加、現在自治会役員 9 名中 3 名が外国人

岡崎氏

① 日本人と外国人と出会わない事解消し、交流の場を作る事⇒初めて理解しあえる。

② コロナ禍の中で芝園団地から感染者が出たとのデマに対し、芝園団地の住民はいたって冷静な対応
⇒日本に中長期滞在者であると知っていたからでないか？

③ SDG s の視点

- ・ 国籍や差別

ヘイトスピーチやベンチの落書きは殆どが外部から来た人たちで、団地に住む人たちは生活面（ゴミ出しや騒音）での問題が解決すれば好意的であり平穏に対応している。

- ・ 自治会の役員 9 名中 3 名の外国人が役員となった。

- ・ SDG s について枠組みは出来ても「誰が仏に魂を入れるか」が重要だと思う。

質疑応答

(8) 本日のまとめ・今後の展望・助言 拓殖大学 名誉教授 赤石 和則

①赤石名誉教授略歴

1973年早稲田大学卒、1983年国際協力推進協会研究員、1991年タイ国立チュラロンコン大客員研究員
1996年東和大学教授、2003年拓殖大学教授、現在に至る。

③ 本日のまとめ

- a. SDGs 目標 11「持続可能なまちと地域社会」
- b. 目標 17 項目がバラバラに存在するのでなく相互に関連しあっている。
例えば目標 1. 貧困を減らそう、目標 2. 飢餓をなくそう、目標 3. 不平等を減らそう
- c. 国際開発ジャーナル 11 月号特集：近づく地球の“限界”求められるプラネタリーヘルスの視座では「グローバル」から「プラネタリー」の時代へと述べている。
- d. 情報・経済のグローバル化は強い人間、強い国を作り格差社会をもたらした。
- e. SDGs に関する様々なネーミングがあるがうまいネーミングには注意が必要
「宇宙船地球号」や「持続可能な開発」といった言葉は独り歩きしてしまう。
- f. セミナーの案内:下記セミナーが予定されているので是非とも参加願いたい。
グローバルセミナー2021「地域で育むパートナーシップ」
日時：2021年2月14日（月）13:00~16:30
形態はオンライン参加+会場参加で参加者同士が意見交換する。

(9) 閉会のあいさつ NPO 法人 JIN 愛育センター 管理者 鄭 錦伊

- ① 外国人高齢者に開かれた老人ホーム「松寿苑」を開設、高齢者の支援活動を行ってきた。
- ② 毎日朝は中国人、フィリピン人、韓国人、日本人のヘルパーの打合せから始まっている。
- ③ これからのグローバル化について以下の通り希望を持っている。
 - a. オリンピックでの「おもてなし」⇒旅行者、お客に対してのスローガン
 - b. 外国人は注意しなければならない対象
これらは日本から世界へ目を向けたグローバル化である。
これからは内なるグローバル化（日本の中でのグローバル化）が進むことを希望している。
- ④ 安心して老いて行ける社会を実現しましょう。

以上